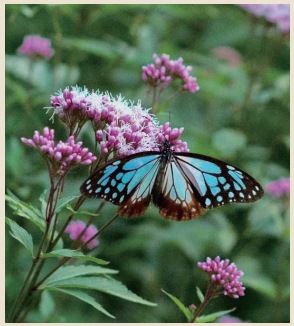
令和５年１月
発行：愛知県半田市
企画・制作：半田市観光協会
監修：新美南吉記念館

新美南吉

1913
…
1943

「ごんぎつね」「手袋を買いに」などで知られる童話作家 新美南吉は、愛知県知多郡半田町（現在の半田市）岩滑（やなべ）に生まれました。代表作「ごんぎつね」は１９５６年から小学４年生の国語の教科書に掲載され、今でも人々に親しまれています。南吉は、生まれ育った岩滑地区を舞台に、庶民や子どもの暮らしと身近な自然を描きました。この冊子では、今も半田に残る、新美南吉童話に登場する舞台を、童話の一節とともにご紹介します。



中山というところに小さなお城があって、
中山さまというおとのさまが、おられたそうです
『ごんぎつね』

新美南吉記念館
童話の森

童話に登場する小さないきものの気配を感じに

ここは、新美南吉記念館の隣にある小さな森。ボクのおはなしの舞台にもなった場所だよ。南吉さんはふるさとの景色や身近にいる生き物を大事に想って、お話にたくさん登場させてくれたんだ。森の中では、南吉さんのお話に登場する花や樹や虫たちにも出会えるはずだよ。そして今はいろんな人たちが協力してこの森を豊かにしたりみんなで楽しめるように整備をしているんだ。新美南吉記念館に来たら、森の散策路をお散歩してみてね！

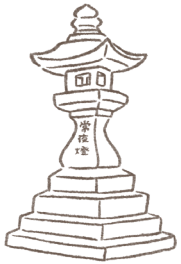
MAP❷ 半田市岩滑西町 1-10-1

NANKICHI HOUSE
南吉の生家

南吉童話の土台を育んだ場所

子どもたちはその店にはいってゆきました。
文六ちゃんのげたを買うのです。
『狐』

ここは、南吉さんの生まれ育った家だよ。かつて知多半島を縦断する道と横断する道が交差する場所にあって、昔はたくさんの人が行き交う場所だったんだ。子どもの頃の南吉さんは、よく店先に座って表の道を眺めていたんだよ。中に入ると、南吉さんの両親がやっていた畳屋と下駄屋が昔のままに再現されていて、今も当時の暮らしを感じることができるよ。大人になった南吉さんは、亡くなるまでここで作品を書いたんだ。



MAP❻ 半田市岩滑中町１丁目８３

そんなに美しいものなら
見たいものだとみんなは思いました。

『赤い蝋燭』

HANDA CANAL

半田運河

江戸時代からつづく醸造文化を感じる風景

静かな田舎で暮らしていた南吉さんにとって、半田運河周辺は賑やかなまちの象徴。むかしから半田運河の周りにはお酒やみそ、しょう油をつくる蔵がたくさんあって、とっても栄えていたんだよ。昔は、この半田運河から船に乗せて江戸(東京)などに売りに行っていたんだ。今は、古い建物や風景をいかした新しいお店やイベントが開催されて、とってもたのしい観光スポットになっているんだよ。

MAP ⑩ 半田市中村町周辺

文明開化の明かるい火を一つ一つ
ともしてゆくような気がした。

『おじいさんのランプ』

HANDA RED BRICK BUILDING

半田赤レンガ建物

先人の起業家精神を今に伝える歴史的建造物

ここは明治時代にカブトビール工場として建てられた建物で、今は「半田赤レンガ建物」とよばれているよ。この時代に建てられたレンガ建造物として日本で五本の指に入る大きさで、とっても貴重な建物なんだ。南吉さんは、お仕事やお買い物の時には半田赤レンガ建物と住吉神社の間の道を通って、まちへと出かけたみたい。世の中が大きく変わる中で、どんどんまちが発展していく様子を感じながら物語をつくっていたんだね。

MAP ⑨ 半田市榎下町 8 番地
TEL : 0569-24-7031

RED SPIDER LILY IN YAKACHI RIVER

矢勝川の彼岸花

一面に咲き誇る花風景が南吉のふるさとを彩る

MAP ❸ 半田市岩滑エリア
彼岸花の見頃は９月下旬～10月上旬

ひがん花が、赤い布のように
さきつづいていました。

「ごんぎつね」

おはなしの中で、兵十がおっかあの為にウナギを捕っていたのがこの矢勝川だよ。秋になると、川の堤（土手）には、３００万本もの真っ赤な彼岸花が咲いてとってもきれいなんだ。

おはなしの世界のようなこの景色は、半田市岩滑に生まれ育った小栗大造さんというひとりの人の想いで始まって、今も地元のボランティアのひとたちの手によって大切に守られているんだよ。矢勝川の向こうには、ボクのすんでいる権現山がみえるよ。ぜひ河原を歩いてみてね。

さあこの泉を汲んでくれ
もろ手を出してすくってくれ

『泉』（新美南吉詩集）

南吉さんの生まれ育った半田市は、昔から日本酒づくりが盛んな地域。物語の中にも、お酒にまつわる仕事をする人や、大人たちがお酒をのんで酔っ払う場面が出てくるよ。暮らしの中できっとそんな様子を南吉さんはよく目にしたんだね。

ここ國盛 酒の文化館は、二百年以上も前に建てられた蔵をつかったお酒の博物館。古くから伝えられてきた酒造りの方法や道具、歴史について知ることができるよ。

KUNIZAKARI SAKE MUSEUM

國盛 酒の文化館

酒造りの歴史や知恵を学べる資料館

MAP ⑫ 半田市東本町２丁目 24
TEL 0569-23-1499　入場無料【要電話予約】
開館時間：10:00〜16:00　休館日：木曜

HOTORI

半田運河の新しい風を感じられる取り組み

このお手々にちょうどいい手袋下さい。

『手袋を買いに』

南吉さんが生きていたころの半田運河のほとりは、きらきらとまちの灯りがともり、いろいろな商店が立ち並ぶまちで、人やものが集まって交流する場所だったんだ。HOTORIは、半田運河の周辺で新しく始まっている取り組みだよ。古くからある文化と、新しいカルチャーを掛け合わせて、遊びにくる人が新鮮な気持ちで楽しめるようなイベントを企画しているんだ。半田の中で、昔と今の両方のいいところを感じられる場所なんだよ。

MAP ⑩ 半田市中村町周辺
開催スケジュールは WEB で

MIZKAN MUSEUM

ミツカンミュージアム

半田の醸造食文化を体験できる観光施設

MAP ⑪ 半田市中村町 2-6
開館時間：9:30 ～ 17:00
休館日：木曜日、年末年始（2023 年 3 月～）
ご予約は希望日前日までに HP からの予約のみ

mim
MIZKAN MUSEUM

酒樽を、隣村の酒屋から、町の酢屋まで、とどけるようにたのまれたのです。

『和太郎さんと牛』

ここは、お酢について、見てさわって、楽しみ、学べる体験型博物館だよ。南吉さんのお話の中で、となり村の酒屋から、町の酢屋まで酒のおり（酒粕）を運んでいたという場面があるのだけれど、酒粕からお酢をつくっていたからなんだ。今ではおなじみの握り寿司だけど、最初に流行ったのは、江戸（今の東京）で、そのきっかけになったのは、ここ半田市にあるミツカンという会社の創業者が粕酢づくりに成功したからと言われているんだよ。

半田市は昔から続くお祭りが盛んな地域。春にはそれぞれの地区で山車がひき出されるんだよ。南吉さんも岩滑の義烈組という山車組にはいっていて『狐』というお話にはそのお祭りの楽し気な様子が描かれているんだ。岩滑の山車を含めて市内には豪華な山車が31輌もあって、5年に一度、ぜんぶの山車が勢揃いする「はんだ山車まつり」というイベントもあるんだよ。全国からたくさんの人たちが来てくれるんだ。楽しみだなあ。

子供達は山車の鼻の下にならんで、仰向いて、人形の顔を見ていました。

『狐』

HANDA DASHI MATSURI

はんだ山車まつり

全国から観光客があつまる半田のお祭り

2023.10.28 (SAT) - 29 (SUN)

新美南吉記念館

自然・風景と調和した建物で、南吉の生涯と文学世界にふれることができる文学館。

MAP ❶ 半田市岩滑西町 1-10-1　TEL : 0569-26-4888
開館時間：9:30〜17:30　休館日：毎週月曜日、毎月第 2 火曜日
（祝日の場合は開館し、その翌日が休館）、年末年始
入館料：220 円（中学生以下無料）　団体 20 名以上は各 170 円

ででむし広場

でんでんむしの像があり矢勝川や権現山が見渡せる小さな広場。

MAP ❹
半田市岩滑高山町 1 丁目

岩滑八幡社

岩滑（やなべ）の氏神。南吉のお話にも登場するゆかりの地。

MAP ❺
半田市岩滑中町 7 丁目

岩滑小学校

南吉の母校で、代用教員として教鞭をとった学校。

＊見学の際は事前に連絡をしてください。

MAP ❼
半田市岩滑高山町 5 丁目

同盟書林

新美南吉もよく足を運んだ書店。店内には南吉コーナーがあります。

MAP ❽ 半田市本町 6 丁目 6 1
定休日：日曜日・祝日（8 月は土曜日も休み）